

**令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書**

団体名 倶知安町 （都道府県: 北海道）

1.当該地域の情報(令和4年12月末現在)

地域の課題	2000年代ころから徐々に外国籍住民が増加し、特にコロナ前は冬季間に人口の15%が外国籍住民という状況まで増加している。また、外国籍住民の増加にあわせて、その国籍も多国籍化し、居住地も町内全域に広がっている。 そのため、外国籍住民と地域の日本人住民が関わる機会も増加しており、コミュニケーション不足によるトラブルが今後発生することが懸念されることもあり、日本語教育の必要性がでてきている。 また、以前実施した多文化共生のまちづくりに関するアンケート調査でも、外国籍住民の回答者の多くが、「日本語を学習したい」と回答するなど、外国籍住民からのニーズも高いが、町内に日本語教育の場はないのが現状である。
在住外国人数 外国人比率	1,663人(総人口 15,629人) 7.4%
在住外国人の状況	【主な国籍と人数】※上位10件まで オーストラリア 428人、英国 307人、中国 108人、ニュージーランド 95人、台湾 78人、カナダ 67人、フランス 53人、フィリピン 45人、米国 42人、ネパール 39人 【在留資格】※上位10件まで 特定活動 836人、技術・人文・国際 314人、技能 152人、永住者 96人、家族滞在 91人、日本人配偶者 68人、経営・管理 36人、永住者配偶者 11人、定住者 10人、技能実習 2号口 9人 【滞在年数・在留期間などの状況】 特定活動で短期間滞在する者が多いものの、なかには10年以上の長期滞在者も一定程度いる。
在住外国人の日本語教育の現状	2019年のアンケート調査では、生活で困っていることの多くが「ことば」であり、回答者の約半数が「日本語を学習したい」「機会があれば学習したい」と回答した。また、町に期待する多文化共生の取り組みとして最も多いのが「日本語教育・教室の充実」であったものの、本町では、これまで日本語教室を開催した実績は無いのが現状である。

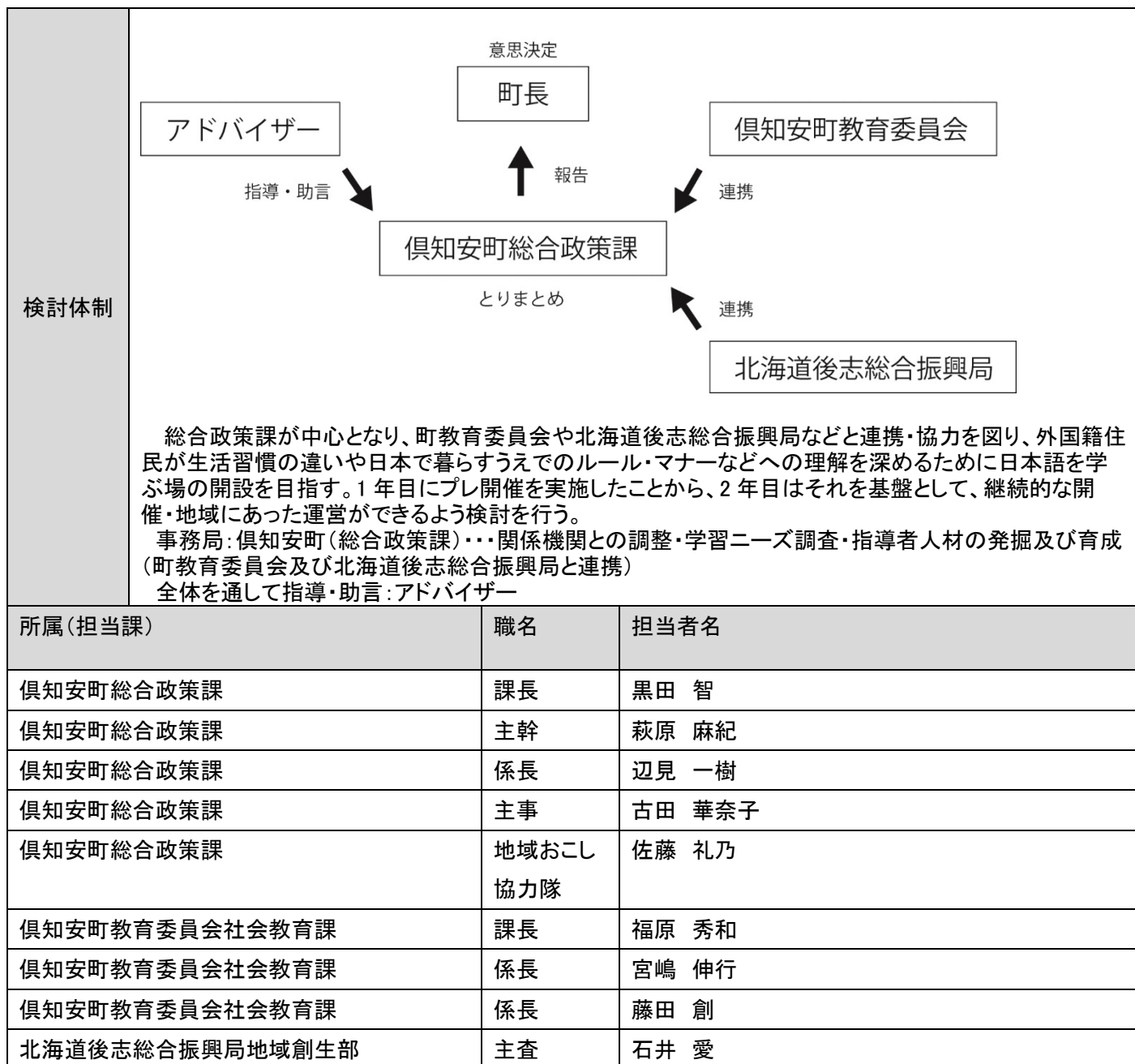
2.事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	日本語が話せないことによる外国籍住民と地域住民とのコミュニケーション不足は地域課題の一つであり、外国籍住民への日本語教育はもちろんのこと、教室の参加を通じて日本で暮らすうえでの生活習慣の違いや地域のルールやマナーへの理解を、これまで以上に深めてもらうことで、外国籍住民と地域住民の双方にとって、住みよいまちづくりの形成を目指す。 また、サポーターとして地域住民が参加することにより、日本人にも多文化共生に対する理解を深めてもらう。
事業の概要	2019年のアンケート調査では、外国籍住民の生活で困っていることの多くが「ことば」であり、回答者の約半数が「日本語を学習したい」「機会があれば学習したい」と回答しているため、外国籍住民が日本語の学習と共に、母国と日本との生活習慣の違いや地域のルールやマナーに対する理解を深めることができる場となる日本語教室の開設に向けた検討を行った。 また、地域住民に多文化共生に対する理解を深めてもらうため、学習サポーター勉強会・養成講座を実施した。 その結果、日本語サロンを複数回開催することができ、外国籍住民への日本語教育の場の提供、外国籍住民・日本人住民双方の居場所づくりにつながった。
事業の対象期間	令和4年4月～令和5年3月
前年度の実績 (2年目以降の団体のみ記載)	倶知安町日本語教室(11月25日、12月2日)1日2回計4回、 日本語学習支援者養成講座(9月14日・21日・28日)計3回、 日本語学習支援者事前勉強会(11月18日)、 日本語学習支援者意見交換会(2月24日)

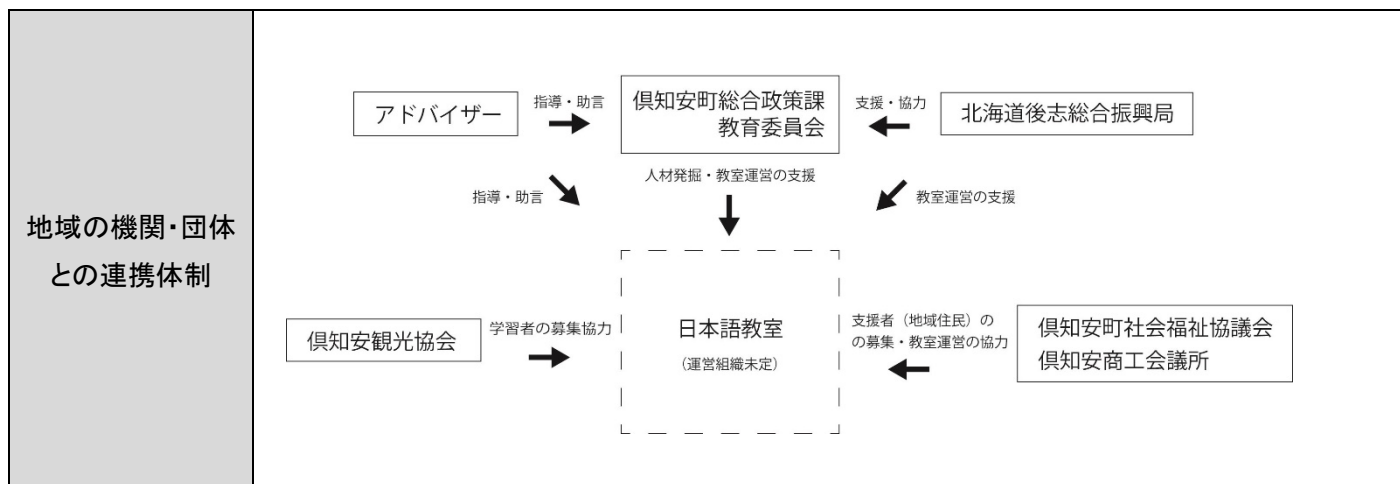
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	辺見 一樹	倶知安町 総合政策課	広報広聴係長	ニーズの把握、住民への意識 啓発、関係機関との調整
	萩原 麻紀	倶知安町 総合政策課	主幹	ニーズの把握、住民への意識 啓発、関係機関との調整
	佐藤 礼乃	倶知安町 総合政策課	地域おこし協力隊	ニーズの把握、教育プログラム の検討など教室の運営に関す ること
	藤田 創	倶知安町 教育委員会	社会教育係長	教室開設に向けた環境整備
	石井 愛	北海道後志総 合振興局	主査	ニーズの把握、住民への意識 啓発、関係機関との調整
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	井上 洋	一般財団法人 ダイバーシティ 研究所	参与	継続 ・新規(2年目)
	土井 佳彦	NPO 法人多文 化共生リソース センター東海	代表理事	継続 ・新規(2年目)
	阿部 仁美	一般社団法人 北海道日本語 センター	理事	継続 ・新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



倶知安町における持続的な日本語教室の実施にあたり、町総合政策課と教育委員会が中心となり、関係機関・団体・企業との連携・協力を図る。 【連携内容】 ①日本語教室の実施にあたり、学習者・学習サポーターの募集などについて業界団体と連携を図る ②地域住民の日本語教育への理解を深めるため、地域の幅広い層に参加を促すことにより、異文化交流の機会を創出する ③学習内容や、サポーターの人材育成などについて、日本語教育の有資格者など専門家の意見を取り入れ、検討する			
組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
倶知安町	総合政策課	課長	黒田 智
倶知安町	総合政策課	主幹	萩原 麻紀
倶知安町	総合政策課	係長	辺見 一樹
倶知安町	総合政策課	主事	古田 華奈子
倶知安町	総合政策課	地域おこし協力隊	佐藤 礼乃
倶知安町	総合政策課	国際観光推進員	瀬尾 智江
倶知安町	社会教育課	課長	福原 秀和
倶知安町	社会教育課	係長	宮嶋 伸行
倶知安町	社会教育課	係長	藤田 創
北海道後志総合振興局	地域創生部	主査	石井 愛
北海道後志総合振興局	地域創生部	主事	立川 穂高
倶知安観光協会	－	－	－
倶知安町社会福祉協議会	－	－	－
倶知安商工会議所	－	－	－

4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和4年 4月	①関係団体ヒアリング(商店連合会・語学学校等) ②役場職員向けアンケート	①・②町内の多文化共生の実情把握のためヒアリング及びアンケートを実施	
令和4年 5月	①コーディネーター会議(5/6) ②飲食店等ヒアリング ③関係団体ヒアリング	①事業計画の検討等 ②・③町内の多文化共生の実情把握のためヒアリングを実施	
令和4年 6月	①学習サポーター勉強会(6/21) ②日本語教室(6/23・28)	①・②勉強会及び日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	
令和4年 7月	①キックオフ会議(7/6) ②日本語教室(7/5) ③関係団体ヒアリング	①事業計画書の作成、会議の日程調整等 ②日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営) ③町内の多文化共生の実情把握のためヒアリングを実施(土井アドバイザー同行)	★土井アドバイザー(7/5～7・来訪) ★阿部アドバイザー(7/6・来訪) 井上アドバイザー(7/6・オンライン) ①事業計画書の内容の検討 ③町内の多文化共生の実情把握のためヒアリングを実施
令和4年 8月	①先進地ヒアリング	①本町の日本語サロンの活動に活かすため、先進地の視察及びヒアリングを実施	
令和4年 9月	①日本語学習支援者養成講座及びブラッシュアップ講座(9/13・20・29) ②実施団体意見交換(9/29)	①新たなサポーターの発掘と既存サポーターの育成のための講座を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営) ②本町の日本語サロンの活動に活かすため、他実施団体(滝川国際交流協会)との意見交換を実施	
令和4年 10月	①学習サポーター勉強会(10/17) ②日本語教室(10/24・27・31)	①・②勉強会及び日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	
令和4年 11月	①学習サポーター勉強会(11/14) ②日本語教室(11/3・7・10・14・17・21・24)	①・②勉強会及び日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	
令和4年 12月	①アドバイザー会議(12/13) ②日本語教室(12/1・5・8・12・15) ③アドバイザーによる町内視察及びコーディネーターとの意見交換 ④実施団体意見交換(12/12) ⑤多文化共生イベント(12/19)	①活動の報告・振り返り、今後に向けた意見交換 ②日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営) ③アドバイザーに町内の実情を把握してもらうため、町内で外国人が多く居住・滞在するエリアで視察・店舗聞き取りなどを実施	井上アドバイザー(12/13・オンライン) ★阿部アドバイザー(12/5・来訪、12/13・オンライン) ★土井アドバイザー(12/7～9・来訪、12/13・オンライン) ①活動の報告・振り返り、今後に向けた意見交換

		④本町の日本語サロンの活動に活かすため、他実施団体(石狩市)との意見交換を実施 ⑤ちょっとした日本語学習と参加者同士の交流を目的とした多文化共生イベントを開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	
令和 5 年 1 月	①学習者ニーズ調査(1/13) ②学習サポーター勉強会(1/23) ③日本語教室(1/30)	①本町の日本語サロンの活動に活かすため、学習者のヒアリングを実施 ②・③勉強会及び日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	
令和 5 年 2 月	①アドバイザー会議(2/20) ②日本語教室(2/2・6・9・13・16・20・27)	①活動の報告・振り返り、今後に向けた意見交換 ②日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	井 上 アドバイザー (2/20・オンライン) ★土井アドバイザー (2/19～21・来訪) ★阿部アドバイザー (2/20・来訪) ①活動の報告・振り返り、今後に向けた意見交換
令和 5 年 3 月	①日本語教室(3/2)	①日本語教室を開催するための準備(広報・周知活動、事前準備、当日の運営)	

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	くっちゃんにほんごサロン「にこちゃん」						
外国人参加者について	[国籍]英国・中国・ミャンマー・イタリアなど 17 カ国・地域の 34 名 (登録のみで未参加の者も数名いる) [属性]中長期的な滞在者を主な対象とするが、一部短期滞在(冬季間のみ)者もいる						
参加者数 (内 外国人数)	学習者 34 名 サポーター 32 名						
開催時間数	総時間 36 時間			内訳 1.5 時間 × 24 回			
目標	開催方法・周知方法等を検討し、今後も継続的な開催につなげていく						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	令和 4 年 10 月 24 日(月) 14:00～15:30	1.5	倶知安町 公民館	2	自分の国	・お互いの国の名所・料理・文化などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター9 名
2	令和 4 年 10 月 27 日(木) 18:00～19:30	1.5	倶知安町 公民館	4	趣味	・お互いの趣味について質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター8 名
3	令和 4 年 10 月 31 日(月) 14:00～15:30	1.5	倶知安町 公民館	4	町の情報	・倶知安町の飲食店や買い物、アクティビティの情報などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター6 名
4	令和 4 年 11 月 3 日(木) 10:00～12:30	2.5	倶知安風土館・小川原脩記念美術館	6	地域の文化体験	・郷土資料館等で日本文化や地域の自然などを学ぶ	サポーター8 名

5	令和4年11月 7日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	3	趣味	・お互いの趣味について質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター7名
6	令和4年11月 10日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	4	旅行	・旅行の経験談や行ってみたい国などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター5名
7	令和4年11月 14日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	3	食べ物・料理	・お互いの国の食べ物・料理などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター3名
8	令和4年11月 17日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	5	食べ物・郷土料理	・お互いの国の食べ物・料理などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター11名
9	令和4年11月 21日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	3	生活で困っていること	・ごみの分別や除雪のことなど、日本や倶知安町の生活で困っていることについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター6名
10	令和4年11月 24日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	3	日本と自分の国の好きなおところ	・日本と自分の国の好きなところについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター12名
11	令和4年12月 1日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	2	スポーツ	・好きなスポーツやサッカーワールドカップのことなどについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター10名
12	令和4年12月 5日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	2	クリスマス	・クリスマスの料理や家族での過ごし方などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター8名
13	令和4年12月 8日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	6	挑戦したいこと	・資格取得や新しいスポーツを始めるなど、新しく挑戦したいことについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター11名
14	令和4年12月 12日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	1	新年	・新年に食べる料理や家族での過ごし方などについて質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター8名
15	令和4年12月 15日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	4	自分の国の食べ物	・自分の国の食べ物、料理について質問し合うなどして会話の練習を行った	サポーター10名
16	令和5年1月 30日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	6	買い物	・買い物で使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター8名
17	令和5年2月 2日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	6	病院	・病院で使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター6名
18	令和5年2月 6日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	6	レストラン	・レストランで使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター9名
19	令和5年2月 9日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	4	郵便局・役場の手続き	・郵便局や役場の手続きで使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター7名
20	令和5年2月 13日(月) 14:00~15:30	1.5	倶知安町 公民館	4	スキー場・書道	・スキー場で使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った ・書道体験を行った	サポーター6名
21	令和5年2月 16日(木) 18:00~19:30	1.5	倶知安町 公民館	3	家電	・電気屋さんで使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター8名

22	令和 5 年 2 月 20 日(月) 14:00～15:30	1.5	倶知安町 公民館	5	バス・電車	・バス・電車を乗るときなどに使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター6名
23	令和 5 年 2 月 27 日(月) 14:00～15:30	1.5	倶知安町 公民館	6	病院	・病院で使うフレーズの練習などをして会話の練習を行った	サポーター7名
24	令和 5 年 3 月 2 日(木) 18:00～20:00	2	倶知安町 公民館	5	日本人に会ったとき	・近所に住む人や友人と会ったときなど、日常で使用する会話の練習を行った	サポーター9名

【主な活動】



にほんごサロン(10/31)



にほんごサロン
(11/3)



にほんごサロン(12/8)

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	現在は町・コーディネーターが運営のほとんどを行っており、今後は町・コーディネーター・サポーターの役割分担を明確にする必要がある。 参加回数が多いなど、活動に意欲的なサポーターを中心に、運営に参加できるような仕組みづくりを行っていく。
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語教室プレ開催	令和 4 年 6 月～7 月(全 6 回)	教室開催の間隔が空くことにより、学習者及びサポーターがモチベーションなどを失わないために、プレ教室を開催した。 【内容】 第 1・2 回 私の生活マップ 第 3・4 回 一日の生活 第 5・6 回 私が住んでいた町
学習サポーター勉強会	令和 4 年 6 月～令和 5 年 1 月(全 7 回、1 回 2 時間)	にほんごサロン実施前に、サポーターとしての活動の振り返りや当日のテーマ決めなどを行うために、勉強会を実施した。 講師：(一社)北海道日本語センター 二通信子、大井裕子 倶知安町日本語教育コーディネーター 佐藤礼乃
日本語学習支援者養成講座・ブラッシュアップ講座	令和 4 年 9 月 13 日～29 日(全 3 回) 13:30～16:30(3 時間)	日本語教室での指導者(サポーター)がいないという課題を受けて、継続的な日本語指導体制を構築するために、外部講師に依頼し、日本語学習支援者養成講座を開催し、人材発掘及び育成につなげた。 また、すでにサポーターとして活動する人を対象としたブラッシュアップ講座も開催し、サポーターのスキルアップにもつながった。 【内容】(全 3 回、1 回 3 時間) 養成講座講師：(一社)北海道日本語センター 二通信子、大井裕子 第 1 回 地域の外国人の状況、地域の日本語教育とは、外国人の日本語学習のプロセス、外国人とのコミュニケーションの方法「聞く、話す」

		第2回 外国人とのコミュニケーションの方法「書く」、外国人の視点から見た日本語、日本語教室での支援者の活動 第3回 地域の日本語教室の実際の活動、日本語学習支援を始めるために、日本語教室の模擬体験 ブラッシュアップ講座講師：(一社)北海道日本語センター 阿部仁美 第1回 「やさしい日本語」を思い出そう、話の進め方・話を引き出すコツ、発話量のコントロール 第2回 何がむずかしいのか(ことば、発音、文法)、間違いをどうやって直すか(ことば、発音、文法)、日本語の「おもしろさ」 第3回 ある話題について・どんなことを話すかを考える、会の運営について(今後長く活動するために)、日本語教室の模擬体験
多文化共生ポットラックパーティー	令和4年12月19日	にほんごサロンに参加する学習者とサポーターが、お互いの料理や文化を知る機会とするために開催。それぞれが料理を持ち寄り交流したほか、日本語学習につなげるために形容詞・形容動詞を使ったビンゴを実施した。
Shiribeshi 留学との連携による出張「にほんごサロン」	令和5年2月28日	「Shiribeshi 留学」に参加する大学生がサポーターとして参加する「にほんごサロン」を開催した。 通常の「にほんごサロン」とは違い、会場をスキー場周辺エリアとしたことで、会場周辺に住む自力での移動手段を持たない新規学習者も参加することができ、既存サポーターにとっても良い刺激となった。 参加者数: 学習者5名(「にこちゃん」1名、新規4名) サポーター8名(「にこちゃん」5名、Shiribeshi 留学生3名) ※「Shiribeshi 留学」・・・道内外の大学生が町内でインターンシップや地域交流を通じて語学の向上や地域の魅力を知ingことを目的に北海道後志総合振興局が実施

【主な活動】



サポーター勉強会(6/21)



日本語学習支援者
ブラッシュアップ講座
(9/20)



Shiribeshi 留学との連携による
出張「にほんごサロン」(2/28)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	1年目からの継続と、少しの発展を目指して活動を行った。 ・サポーターの発掘・育成(6月～1月) 日本語教室での指導者(サポーター)がいないという課題を受けて、継続的な日本語指導体制を構築するために、外部講師に依頼し、サポーター勉強会や日本語学習支援者養成講座を開催し、人材発掘及び育成につなげた。 ・にほんごサロンの定期的な開催(6月～3月) にほんごサロンの活動も1年目・2年目のプレ開催を経て、大枠の形が見えてきたことで、10月以降は定期的に開催(週2回)することができた。 その他にも、学習者やサポーターの交流イベントや、コーディネーターによるヒアリングなどを実施することで、それぞれがサロンに関わっているという意識づけや信頼関係の構築につながった。
事業推進にあたり問題点と対応策	・町・コーディネーター・サポーターが共通意識を持つ サポーターそれぞれの参加意識の違いや、町が目指す地域の日本語教室とサポーターの考える日本語教室の違いなど、それぞれの立場によって少しずつ感覚のズレがあったため、しっかりと町・コーディネーター・サポーターが共通意識をもって活動ができるように、サポーターへのヒアリングやアンケートを実施してサポーターの考えを聞いたほか、サポーターにはサロン前の勉強会参加を必須とすることで、町の考えを伝えるようにした。
成果	日本語教育の経験のあるコーディネーターを新たに迎えたことで、継続した活動につなげることができ、今後の多文化共生の土台となるような活動を行うことができた。 1年目よりも継続して参加してくれる学習者・サポーターも増え、コーディネーター・学習者・サポーターが活動を重ねるごとに信頼関係を深めていけるような活動ができ、将来的な自立に向けた準備にもなった。
地域の関係者との連携による効果	北海道後志総合振興局と連携し、事業を進めることができた。 また、関係各所へのヒアリングやアンケート調査等を行ったことで、地域の課題を確認するとともに、地域にサロンの存在を知ってもらうことにもつながった。
コーディネーターの主な活動	・ヒアリング・意見交換 町内の関係団体・飲食店等、先進地・本事業の他実施団体、学習者・サポーターなど ・にほんごサロン等の運営 サロン・勉強会・養成講座などの企画、周知・広報活動、参加申込受付、当日の運営など ・アドバイザー会議等の開催 日程調整、資料作成など
アドバイザーの主な助言	・将来的な自立を見据えた活動を いまのタイミングから予算の積算をしておき、事業終了後に予算が確保できるようにしておくこと。 コーディネーターなどの一部の人に負担がかからない開催・運営方法を検討すること。 ・効果のある情報発信を 学習者・サポーターをもう少し増やすため、さまざまな方法を活用してサロンの周知に努めること。単に広報紙やSNSに掲載するだけではなく、特に学習者(外国籍住民)の目につくよう工夫をした発信を。(外国籍住民のコミュニティや、利用が多い場所での周知など)
今後の課題	・特定の人に負担がかからないような運営体制の検討 町・コーディネーターで運営のほとんどを行っているため、特定の人への負担が大きくなっている。将来的な自立や継続・安定的な開催をするためには、サポーター等にも当日の準備などの一部運営の協力をお願いするような形に移行していくのが望ましく、町・コーディネーター・サポーターの役割分担を整理していく必要がある。 (例:申込制ではなく自由参加制とする、サロンの当日運営や準備の役割を町・コーディネーターからサポーターへ移行する など) ・ターゲットを明確にしたサロン運営 外国籍住民の国籍・在留資格・滞在期間などがさまざまなため、どこにターゲットを絞るのか、もしくは、さまざまな学習者に対応できる形とするのか、といった検討を行い、今後はターゲットにあわせた独自教材づくりや、サロン運営を行う。 ・事業終了後を見据えた予算確保

	事業終了後を見据え、サロンの運営費や人材育成講座の開催経費、周知・広報活動に係る経費など、必要となる予算の積算を行い、事業終了後も活動が継続できるよう、予算確保に努める必要がある。
今後の予定	町とコーディネーターを中心に、これまでの活動を継続しながらも、将来的な自立を見据えた活動を行う。 1.これまでの活動の見直し・改善 2.日本語教育プログラムの確立 学習者・サポーターなどへのヒアリングにより、運営体制の見直し等を実施する。 また、独自教材の作成も実施する。 より効率的に安定的な運営ができるようにし、そのために、コーディネーターの負担軽減策を検討し実施する。 3.ボランティア募集体制・育成プログラムの確立 日本語学習支援者養成講座、サポーター勉強会等により、サポーターが共通意識をもって活動ができるようにする。 4.日本語教室の定期的な開催 「にこちゃん」の定期的な開催により、学習者・サポーターのモチベーションを維持し、次年度以降の自立した活動につなげる。 5.住民理解の向上に資する取り組み にほんごサロン・多文化共生に関する住民理解と協力を得るため、広報紙や SNS 等を活用した周知やシンポジウム等の実施を検討する。

本件担当： 倶知安町総合政策課広報広聴係